HP http://azalea.ac.city.myoko.niigata.jp/himega-s/

6 月

学校だより/姫川原小



一年があっという間に終わらぬためにも。」れば何も変わらない。変化は自分でおこすもの。姫小最後の「待っているだけでは、変化は起こらない。自分が動かなけ

そんな話をした五月の全校朝会だった。それを受け、何となるに、年生が意識して臨んだ。六年の一人、応援団長は次のように振り返った。「自分が大きな声を出すと、みんなもついてき方に振り返った。「自分が大きな声を出すと、みんなもついてきった貴重な体験だった。ミニバスの練習でも、パスは待っていてもった貴重な体験だった。ミニバスの練習でも、パスは待っていてもった貴重な体験だった。ミニバスの練習でも、パスは待っていてもった。とが分かった。自分が高張ると、改めてみんなもついてきった。とれることが対した。とは、世野、世野、大人な話をした五月の全校朝会だった。それを受け、何となもいた。

張る成長する姿から、感動をもらい、喜びが幸せを生む。として、すかさず誉めていきたい。それが子どもたちの頑をして、すかさず誉めていきたい。それが子どもを見つめ育て実感できる瞬間があるはずだ。見逃さず意味付けてあげたい。は多い。一人一人が意識することで、自分が変わった気持ちをは多い。一人一人が意識することで、自分が変わった気持ちをは多い日々の中に、深い意味の行動が自然と出ていること

をで諦めず、自ら変化を起こそうと動き続けた子どもたちだっまで諦めず、自ら変化を起こそうと動き続けた子どもたちだっして昨日は、高学年が市内ミニバス大会の試合に臨んだ。最後弧を描くように空を行き交い舞う。籠が目標だ。同じ籠を目指弧を描まし投げ入れてもなかなか入らない玉入れ。白球が

を目指して頑張る姿から、感動と喜びを味わいたい。 そして今朝、ブラジルではワールドカップが開幕した。一点

最後の運動会 姫小魂 力を合わせ開かれる

午前午後と、気持ちを切り替えて十分楽し んだのが子どもたちだったと再認識しま の運動量で疲れないかと心配しましたが で競技に参加する余裕。最初は、たくさん にかける集中力。午後は地域の中で楽しん **ヽなる思いでした。午前の紅白対抗の勝負** りごく楽しかったとの感想も多く、胸が熱 き、子どもたちは最後の運動会だったが 皆様方からいい運動会だったとの声を

列に繋がり会場が一体感に溢れて に四人となり、ついに決勝戦では、一年生 どもたちの強い記憶に残るものです。 と保育園児の勝負となりました。最後は一 ざり合い、初めのじゃんけんで二人組、次 みは、ふるさとへの愛着にもつながり、 の姿を直に見られることです。その意気込 っ込んでいったり、普段見せないもう一つ 剣に走ったり、真顔で小麦粉の中に顔を突 じゃんけん列車では、大人も子どもも混

も色いメッセージフラッグの言葉を拾う 姫小 今までありがとう。 ○姫小魂は永遠です。 ○たくさんの思い出をありがとう!子どもと一緒に親も成長できました。

○この学校にこれてよかった。

















同運動会が盛大にグラウンドで開かれま 例年より早い五月一七日、最後の地区合

さまから終日応援いただき感謝申し上げ 祖父母の皆さんをはじめ、大勢の地域の皆 運動会と聞き、遠路駆けつけてくださった 地域主体とする内容に分けました。

最後の

地域の運動会のいいところは、大人が直

というグループの「あとひとつ」という楽曲でした。 今年の鼓笛隊演奏はファンキーモンキーベイビーズ

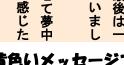
♪あと一粒の涙で

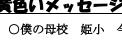
ひと言の勇気で

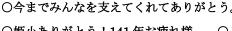
願いがかなう

すばらしい一日でした。 になる清々しさを子どもも大人も感じた 何事も精一杯頑張る、力を合わせて夢中









る子どもたちを音楽に合わせ応援するうちわ部隊が広がっ

担当教諭の熱い思いが、姫うちわ作成に繋がり、演奏す

ばして

あの空へ♪

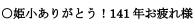
らめないでいて その時が来るって

何度でもこの両手を

あの空への 君もあき

僕は信じているから

ていきました。







暑い中全校遠足鳥坂城趾まで歩いたよ

5月30日、大毛無山の残雪が一気に溶けそうな程の暑さの中を全校味噌汁遠 足に出かけました。子どもたちの足の速いこと、予定より35分も早く到着です。



昼食後は、なかよし班の4・5年生がガイド役になり鳥坂城跡へ。 植物から歴史に至るまで学習の成果バッチリでした。山頂では鳥坂 城址保存会の方から貴重なお話をお聞きすることができました。姫 川原の町を一望できる景色にみんなで見入っていました。



遠足の日は、子どもがかかわる「おにぎりの日」

早起きをしてがんばったとの報告がたくさんありました

おにぎり報告と、児童作文を紹介します。

- ◆低学年…お家の人と一緒におにぎりを作る。
- ◆中学年…おにぎりを自分で作る。
- ◆高学年…ご飯を炊き、おにぎりを作る。







- 低学年 ◆にぎる力がつよくてつぶしてしまいました。三角を作 るのがむずかしかったです。
 - ◆まわしながらにぎるのがむずかしかったです。
- 低学年母◆いつもご飯を炊いてくれるのでスムースにおにぎりを 作れました。朝ご飯に家族の分のおにぎりを作ってく れてとてもおいしかったです。
- 高学年母◆何日かかけて三角おにぎりが作れるように練習しました。本番の日、上手においしそうなおにぎりが完成!

遠足に行ったよ (3年)

あつくて行く時タオルをぼうしの上にのせて赤 ずきんのようなかっこにしました。山に入ると少し すずしくなりました。虫が顔にぶんぶん飛んでやだ かったです。豚汁はニンニクの味が良かったです。 食べているときに毛虫もやってきました。鳥坂城跡 で話を聞けてよく分かりました。家でもそのくらい おいしい豚汁を作りたいです。おいしかったです。